こんにちは　NPサークルの仲間

「母を思って」　五藤美枝子

昨年春に妹の家にいる時、母の心臓が悲鳴をあげて２ヶ月超の入院をしました。妹は専業主婦で毎日病院への対応を一手に引き受けてくれました。私はほとんどを任せて、週末に名古屋通いをしただけで、申し訳ない気持ちで一杯でした。この入院がきっかけで、妹と今まで以上によく話すようになりました。
母が退院してから「故郷の新潟」へ帰りたいと強く希望したのです。病院では「一人生活するのは無理です」と強く反対され、「それでも」と母が言うと「後はご本人様次第ですね」となり、判断は私たちに委ねられました。「もし帰さないで、何かあったら」「帰して何かあったら」どちらが後悔するのかと話し合いました。「あれだけ帰りたい」と言っているのだから、「帰そう」ということになり、母は独居老人となりました。

母は新潟でデイサービス、生活支援ヘルパー、リハビリ等を利用して、家でも車椅子の生活を始めました。今まで出来ていたことが、まったく出来なくなったのです。掃除は車椅子では出来ません。洗濯を干すことも、トイレを片付けることも、お風呂に入ることも、もちろん買い物に行くことも出来ません。今まで出来ていたことが出来ないことは、ことの他苦痛なようでした。そして、三人のヘルパーさんによる洗濯、掃除、食事の用意、リハビリには病院のナースが１週間に２回、１時間の機能訓練にきてくれます。はじめは車椅子での立ったり座ったり、そして家の中をぐるぐると車椅子で回ります。家の中に他人が何人も出入りすることに、抵抗感はあったと思いますが、それは一言も言いませんでした。「自分では何も出来ない」のだからときっと心の奥深くで、思っていたのでしょう。

母が１番困ったのは衣服の着脱です。靴下が曲者です。ベッドに座り、もんどりうちながらはくのです。ケアマネージャーからも、なるべく一人で出来るように、「それが肝心です」と言われました。助かったのは季節が春から夏へ向かっていて、衣服が薄物になり、着脱しやすくなっていったことです。母は頑張りました。そして新潟での生活は、母を少しづつ元気にしてくれました。古い友人にも、近所の人からも支えられました。デイサービスで習ったことを、楽しそうに話す母は、「お世話になることは恥ずかしい」とかたくなに思い込んでいた母とは随分と変わりました。
私も新潟へよく通いました。妹とも、母の一挙手一投足について話合いました。無事に秋が過ぎ、雪が多くなる前に千葉へ移ってきました。今は一緒に暮らしています。そして色々なサービスを受けながら、多くの方の支援をいただきながら、母は８７歳になりました。又春になると新潟での一人暮らしが始まりますが、「母を思う」ことが姉妹の強い絆となった気がします。

小山田治子のコーナー

NPO 法人心の笑顔サポートセンターの終焉

初めがあれば終わりがある。入学すれば卒業がある。今しみじみと世の常、世の変遷を感じています。
10 年ひと昔と言われますが、10 年間というのは実に様々な変化をもたらすものです。

10 年前、CHR で学んで下さる方々の活動の場を作りたい、私の活動を引き継いでもらいたいとの思いから、NP サークルのメンバーを中心に当時の受講生に呼びかけて志のある方々に集まっていただき、何度もミーティングを繰り返して NPO 法人心の笑顔サポートセンターを設立しました。

CHR 研究所の目玉でもあった「母親笑顔教室」「社会人笑顔教室」はサロンとして引き継がれ、親教育は紙芝居教室として新たに発展し、カウンセリングの実践としての電話相談はゆっくりじっくり聴いてもらえると数少ないリピーターの頼りの綱として活動をしてきました。そして、随時企画した各種講座や、行政主催の生涯学習への出講など、大いに夢を膨らませながらの出航にふさわしい活動を続けてまいりました。

そして 10 年。学んだカウンセリングをどこかで活かしたいと意欲満々だった人たちでしたが、夫の転勤で海外に行く人や地方に行った人。覚悟はしていたものの現実に 4 人の老親の介護が始まり身動きが取れなくなった人、その他家庭環境の変化で出かけにくくなった人など活動のできる人たちが減ってきたことと、期待する次の世代の新たな人たちの入会が望めなかったことなどから 10 年という一つの区切りの年に話し合って NPO 法人は閉めることにいたしました。

2-3 年でダメになる NPO 法人が多い中よく続けてこられたという思いもありますが、NPO 法人が主となり CHR が間借りをするという私の夢ははかなく消えてしまいました。しかし、すべて終わりではなく、法人という縛りはなくなりますが、CHR 研究所のボランティア部門として活動は続けてまいります。

さて、NP サークルのメンバーも以前に比べるとかなり減ってきましたが、本来の目的である会員の親睦の場を充実させ相互交流を活発にし、多くの人たちとの新たな出会いを楽しみ刺激を受け、心豊かな人生を送るために機能させたいと思います。毎年メンバーとして会費を納め協力して下さった皆様ですが、今一度所属している意義を再確認し活性化に是非ともご協力お願いいたします。私も年齢とともに仕事の量も減ってまいりました。今まで以上に気軽に顔を見せに来てください。楽しみにしております。